

西バルカンの歴史的な災害

災害の背景と原因

2014年5月13日にセルビア中で大雨が降り、5日間の降水量が非常に多く、サヴァ川をはじめとする大きな河川の水位が、次々に上昇した。セルビア国内で雨量の計測を開始して以来、最高記録を超えた川面水位だった。



16日の朝早く、コルバラ川の水が氾濫し、オブレノバツという街を破壊した。オブレノバツだけでなく、スヴィライナツ、スメデレブスカ・パランカ、ウーヴ、パラチン、ロズニツァ、ルチャニなどの街が非常に大きな被害を受け、家や自動車、建物などが濁流に流された。そして、クルパニュ、バイナ・バシュタ、ゴルニ・ミラノバツなどの街では地すべりのため、被害が拡大した。歴史的な洪水の影響で37000人以上*が避難させられ、数千人は家がなくなったため、避難所に移動するしかなかった。

たった五分で生活が変わってしまった

セルビアから日本へ行く友達を見送りに行ったオブレノヴァツという街は、もうない。住民は皆、避難させられて、そこには、家やペットの様子を見に帰った一人か二人しか見当たらない。これまでの人生で普通だと思っていた生活が、たった五分でなくなった、というニュースだった。

かつて友達と気楽に歩いたり、チェヴァピと言う名物料理を食べに行ったりしたボスニアのドボイという街の写真がニュースに出てきた。しかし、そこにあった美しい思い出の代わりに、今は汚れた海しかみえない。

これまで問題や困難だと思っていたことについて、だれももう考えていない。それよりもっと深刻な問題が表れたからだ。水の力で壊れた家や消毒できないほど汚れた家具を捨てて、もともと厳しい生活していた家族が、それぞれ最初から全部やり直さなければならない光景を見たら、どうすればいいだろう。「大丈夫だ。我々は強いから」。

雨がまた降り始めたのを見ても、ほほえみながら、こう言うしかない。

* 国際協力機構（JICA）バルカン事務所 HP：<http://www.jica.go.jp/information/jdrt/2014/140520.html>



三日間で三ヶ月分の雨が降った。

この150年間で最も厳しい洪水をきっかけに、バルカン半島中が努力して、皆のために、人生のために、将来のために一生懸命に頑張っている光景を見たり、感じたりすると、人類一般に対する信頼が戻ってきた。

この光景に感動していない人は一人もいない。

しかしながら、本物の戦いはこれからだ。水がひいてから、もとの生活に戻るためには、どうすればいいだろうか。洪水は普通の人々、貧しい人々の日常生活に大きな被害をもたらしただけでなく、農業、畜産を頼りとするこの国の今後に壊滅的な影響を与えるのでは、と危惧されている。

フェイスブックで洪水の写真をシェアすると、日本の友達が皆びっくりする。逆に、何で今まで知らなかったかなあ、とわたしが思う。このことについてまったく知らない人が多いのか。それなら、日本に留学したことのある私たちは、洪水のことについて日本の人々にも伝えなければならない。たしかに、地図で見つけにくい国だが、世界の一部分として考えてほしい。

私たちは、その日本とセルビアの架け橋になろうとしている人間の責任として、日本にいる友達にも現状を教えなければならない。

そして、苦難は続く…

現在、避難民は赤十字などの団体に援助されているが、一時的な支援方法にすぎない、と考えられている。洪水によって、工場、農園、炭鉱などが破壊されたため、被害者は家や車だけでなく、生活をやり直すための資金源も失い、生活必需品さえも手に入れることができないという生活をしている。赤十字などのような団体がいくら支えても、今後も不足し続けるという恐れがある。時間が経てば経つほど、強力なサポートがなくなって、被害者の苦勞が増えていくだろう。

作成者：セルビア共和国 ベオグラード大学 言語学部 日本語専攻 2013年度 卒業生

ミロシュ・スタノイェヴィッチ (2012-2013年 文科省日研生【高知大学】)

スロボダン・ヤイチ (2012-2013年 文科省日研生【東京学芸大学】)